

事務事業名 ごみ指定袋等購入・販売事業

出力日：令和06年03月18日

キーコード：388

施策：	23	循環型・低炭素・自然共生社会の推進	財務コード	01040202-04-328
基本事業：	02	ごみの適正処理の推進	担当部	環境経済部
基本事業の成果指標	不法投棄された件数 分別間違いの割合（収集ごみの混入率）		担当課	環境課
			担当係	環境保全・廃棄物



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和59年度 ~		新規・継続	継続	会計区分		実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
全世帯及び事業所			1 家庭及び事業所の指定袋・粗大ごみ専用指定シール等の作成 指定袋の種類は、家庭用、事業所用それぞれ可燃物、缶、ビン、不燃物、ペットボトルの5種類。内容物に応じて複数のサイズを揃えている。 粗大ごみ専用シールを作成する。						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			2 指定袋等の販売 家庭系指定袋の流通体制は、作成 在庫管理、取扱店への販売事務（筑紫野市商工会）、市民への販売（指定袋取扱店） 事業系指定袋は、商工会と収集業者により販売する。						
家庭及び事業所から排出されるごみが正しく分別され排出されている。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	03年度 実績	04年度 実績	05年度 当初	06年度 要求	07年度 計画	08年度 計画	目標
1人1日あたりのごみ排出量		g	761	742	773	750			773
事業所ごみ総量		t	8,137	8,185	9,200	9,200			9,200
5. コスト									
事業費		計	千円	121,931	122,632	141,745	150,381		
		国	千円		0	0	0		
		県	千円		0	0	0		
		地方債	千円		0	0	0		
		その他	千円		0	0	0		
一般	千円	121,931	122,632	141,745	150,381				
正職員人工数		人工	0.8	0.8	0.8				
正職員人件費		千円	6,337	6,182	6,252				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	128,268	128,814	147,997	150,381			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている		<結果> 1人1日あたりのごみ排出量は19g減少しているが、事業所ごみ総量は48t増加している。 <原因> 有料指定袋を導入することにより、ごみの減量化及びごみ分別の適正化を図っている。 <課題> 分別などの排出ルールを啓発することにより、さらなるごみの減量や再資源化に努める。							
どちらかといえばあがっている									
あがっていない（停滞・低下）									
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）									
改善案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）			改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了		
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）			備考・特記事項 or 進行管理欄						
昭和59年4月 有料指定袋（ビン・ガラス/金属・陶器類）開始 平成5年7月 有料指定袋、有料シール（可燃・粗大）開始 平成20年4月 事業系指定袋の導入、家庭系ごみ袋を5種類（可燃物/缶/ビン/不燃物/ペットボトル）に増やす。			<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年10月 不燃物小袋を導入</li> <li>指定袋は、収集作業員の安全面と効率性を考慮した仕様を採用</li> <li>視覚障がい者が判別できるよう袋に点字識別表示を施している</li> </ul>						